

【近畿 ESD コンソーシアム・学生による ESD 活動支援】

イオンモール奈良登美ヶ丘におけるワークショップ 活動報告書

国語教育専修 1 回生 吉岡 優来

1. 実施日 2022 年 9 月 24 日（土）10：30～17：00

2. 場所 イオンモール奈良登美ヶ丘 3F ならとみコート

3. 参加者 音楽教育専修 4 回生 佐藤 ころろ
教育学専修 3 回生 木下 結等
国語教育専修 3 回生 川田 大登、1 回生 田中 愛花、吉岡 優来
特別支援教育専修 3 回生 山本 留維、1 回生 神吉 優利奈
英語教育専修 2 回生 苗代 昇妥

4. 活動の概要

イオンモール奈良登美ヶ丘において、「大学生に学ぶ SDG s ～木に親しむ～」というテーマの下、春日山原始林の木や鳥、鹿を取り扱った楽しく学べるワークショップを 60 分程度行った。小学 1 年生から 6 年生が対象であった。参加者に、アंकロンの演奏で活動自体に興味を持ってもらい、ワークショップの中で奈良の春日山原始林・鳥・鹿・人間と植物と動物の共生についての学びを促しながら、バードコール製作や鹿の折り紙製作を行い、取り扱ったことについて親しみを持てるように工夫を行った。

5. 参加学生の学び・感想

私は、出前授業を通して、発達段階に合わせた声かけの重要性を学んだ。今回の出前授業には、未就学児から小学校 6 年生という幅広い年齢の子どもたちが参加した。バードコール製作や折り紙で鹿を折る際、特に未就学児や小学校低学年の児童は、活動に参加できなかつたり、理解が追いついていなかったりと様々な様子が見られた。そこで、どのように参加を促すか、分かりやすい説明は何か、試行錯誤しながら声かけを行った。このことにより、子ども達が楽しく活動に参加する様子が見られた。このことから、発達段階によって、理解に差があることを実感したと共に、それに合わせた声かけを行うことが子ども達の理解につながるということが分かった。今回学んだことを、これからに生かしていきたい。

（音楽教育専修 4 回生 佐藤 ころろ）

今回、初めてショッピングモールで出前授業を行い、その楽しさと難しさを感じた。授業では、バードコールの製作と鹿の折り紙の工作の時間が中心であったが、参加してくれた子どもたちがそれらを楽しんでくれていて、良かったと思う。授業で学生から伝える時間は短かったが、目標である木に親しむきっかけを作ることができたであろう。一方で小学校低学年や未就学児の子どもが多かつたり、その一方で高学年の子どもがいたり、参加する時間がバラバラだつたりして、ショッピングモールにおける出前授業ならではの難しさを感じた。

（国語教育専修 3 回生 川田 大登）

今回の出前授業では、ショッピングモールにてバードコール工作、鹿の折り紙教室、春日山原始林の自然環境についてのワークショップを行った。私は、直接的に子ども関わる機会が少なかつたが、前で

折り紙の説明しているときに、一生懸命聞こうと子どもたちの姿勢に感動した。また、大学生も子どもと真摯に向き合っており個人の成長段階や精神的発達を加味した支援で良いものだった。集客も難しいところはあったものの、チラシやポスターを用いて積極的に声かけを行うことで多くの参加者を募ることが出来た。保護者からぜひ小学校にも来てほしいという声もあった。機会があれば、小学校での出前授業もやってみたい。

(国語教育専修1回生 田中 愛花)

今回のイオンモールでの出前授業では、バードコール製作と折り紙を通して、春日山原始林の鳥、鹿に親しむことを目的とした授業であった。参加者は小学生を想定していたが、未就学児や保護者の方も多く参加していただいた。私はバードコールや折り紙の製作の手助けをした。低学年や未就学の子どもへの対応をすることが多かったので、分かりやすい言葉で折り方を説明することの難しさや、製作をしただけで終わらないように声かけをすることの大切さを学んだ。また、難しい工程があったとしても自力でしようとしていたり、バードコールを「明日使う!」と言っていたりした子どももお楽しみながら奈良の自然にも親しんでもらえてよかったと思う。

(国語教育専修1回生 吉岡優来)

今回は春日山原始林や鳥、鹿を取り扱った。小学生が対象だったが保護者との参加が条件だったため低学年の児童が多く、就学前の子どももいた。開催地が奈良公園から遠かったため、想定通り子ども達は鹿や春日山原始林のことをよく知らなかった。資料として写真をたくさん用意していたことは良かった点であった。また、企画の中で2回製作活動を行ったが、説明したことと製作物にきちんとつながりがあったため子どもたちは「作ること」以外にも楽しみを見出していた。大学生は、自分なりに考えて子どもと接していて全体としては上手くいったと思う。ただ、お手拭きやテープなどを当日慌てて用意したので、次はリハーサルを入念にしたい。

(特別支援教育専修3回生 山本留維)

今回の出前授業は、森と動物、人の関わり方をテーマとした授業で、授業の中の活動としてバードコール工作と鹿の折り紙を行った。私は、出前授業を行う中で子どもの得手不得手や興味関心によって活動への積極性が違うことを学ぶことが出来た。折り紙が大好きな子どもは、説明を聞くだけで楽しそうに折っていたが、折り紙を苦手を感じる子どもはあまり笑顔が見られなかった場面もあったからだ。また、このように子どもの積極性が違うことから、声かけが大切だと実感できた。声かけによって苦手な子どもでもコツを伝えたら上手にできて喜んでくれたし、元々上手な子どももまわりの人の声かけを聞いて自信をつけ、物事への関心が高められたと思った。

(特別支援教育専修1回生 神吉 優利奈)

今回の出前授業を通して学んだことは、参加者一人ひとりに合わせて関わり方を変えることの重要性である。今回の出前授業には小学校高学年から未就学児まで幅広い年代に参加して頂くことができた。同時に様々な子どもたちと関わる事ができるという貴重な経験ができた。その一方で、学生が行う授業や一人ひとりへの声かけには工夫が必要であることを学んだ。参加者によって得意なことが違うので、年代や興味に応じて関わり方を変えていくことで学びが大きい出前授業になると考えた。

(英語教育専修2回生 苗代 昇妥)